

ス支拂又ハ其ノ受領

七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人(外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ

含ム)又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス財產(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル

出資ヲ含ム以下同ジ)ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收

十 前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行

爲

十一 外國爲替相場ノ取極

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券(財產權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同ジ)、債權又

ハ債務ノ取得又ハ處分

一 外國通貨又ハ外國爲替

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ヘノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類

其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取

引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サ

ズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隠蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、

使用人其ノ他ノ従業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國爲替管理法改正法律案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十六年二月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣公爵近衛文磨殿



外國為替官理法改正法律案帝國
議會、提出、件

右謹、裁可、仰、

昭和十六年二月四日

內閣總理大臣公爵近衛文磨



大甲四〇

二月四日

昭和十六年二月三日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官



外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

星野國務大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙大藏司法商工拓務四大臣請議外國為替管理法中改正法律案ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

外國爲替管理法改正法律案
右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十六年二月五日
日 衆

內閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

拓務大臣

對處シ本邦對外經濟力ノ維持伸張ヲ圖ル爲ニ
對外經濟方法又ハ在外財產若ハ外貨資産等ニ關スル指導統制、本
對外國權益擁護等ニ付爲替管理上有效適切ナル措置ヲ採ル必要益々
増大シタルモ現行法ハ之ヲ實施スル上ニ於テ遺憾ノ點尠カラザルヲ
以テ之ガ補強ノ必要ヲ生ジタルト共ニ從來同法運用ノ經驗ニ徵シ追
加補整ヲ必要ト認メタル事項ヲモ併セ改正セントスルモノナリ
以上ノ理由ニ依リ外國爲替管理法中改正法律案ヲ第七十六回帝國議
會ニ提出セントス
仍テ別紙改正法律案竝ニ同理由書ヲ具シ閣議ヲ請フ

昭和十六年一月三十一日

主任者 野田爲替局總務課長



山崎

大甲四〇

大藏省

大藏大臣 河田



司法大臣 柳川平



商工大臣 小林一三



内閣總理大臣 公爵 近衛文麿 殿

拓務大臣 秋田 田



大藏省

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁

止又ハ制限スルコトヲ得ニ基キ又ハ外國居住者

一、外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二、通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金、合金若ハ金

同條ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造若ハ毀傷

下三、外國へノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

ヲ四、外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者ハ法人、外國

一、其ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ、爲ニスル本邦内

同條ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

八五、外國ニ於テ爲ス支拂、本邦内ニ於ケル委託

六、本邦居住者ハ法人、本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム

六、爲ニスル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

法律第 號

外國爲替管理法中左ノ通改正ス

第一條第四號ヲ左ノ如ク改ム

外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者（法人ノ支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ）ノ爲ニスル本邦内ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

同條第六號中「證券」ヲ「證券（財産權ヲ證スル證書一切ヲ含ム以下同ジ）」ニ、第十二號中「財産」ヲ「財産（出資、事業又ハ營業ヲ含ム以下同ジ）」ニ、「第六號又ハ第七號」ヲ「第十號又ハ第十號」ニ改ム

同條第五號ヲ第九號トシ以下順次四號宛繰下ゲ同條ニ第五號乃至第九號トシテ左ノ四號ヲ加フ

五 外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦内ニ於ケル委託

六 本邦居住者（法人ノ支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）ノ爲ニスル

- 七 外國居住者ニ對スル債權、取立又ハ取立、依頼若ハ引受
- 八 外國居住者ノ爲ニスル債權、取立又ハ取立、依頼若ハ引受
- 九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人ハ外國法人、本邦内ニ在ル支店其ノ他、營業所ヲ含ム又ハ命令、定ムル本邦法人、本邦内ニ於テ爲ス財産ノ事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ、取得若ハ處分、預ケ金、引出又ハ貸出金、回收
- 第十條 前號ニ掲クル者、爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス
- 第三 前號ニ掲クル取引又ハ行爲
- 十一 外國爲替相場ノ取極
- 十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券ハ財産權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同ジ、債權又ハ債務、取得又ハ處分
- 十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務、取得又ハ處分

外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立、取立依頼若ハ其ノ引受又ハ

外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立、取立依頼若ハ其ノ引受

八 外國居住者、本邦ニ居住スル外國人若ハ命令ノ定ムル外國系

本邦法人ノ爲ス本邦内ニ於ケル財産ノ取得若ハ處分又ハ預ケ金

ノ引出若ハ貸出金ノ回收又ハ右ノ者ノ爲ニスル若ハ右ノ者ヲ相

手方トスル右ノ取引若ハ行爲

第二條ヲ削リ第三條ヲ第二條トス

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ニ關シ日本銀

行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却ヲ命ジ其ノ他必要ナル事

項ヲ命ズルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表

示スル外國居住者ニ對スル債權

十四 信用狀ノ發行又ハ取得

十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十六 證券ノ輸出又ハ輸入

第十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出

又ハ輸入

第十八 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲

ゲザルモノノ取得又ハ處分

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本

銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコト

ヲ得

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ニ關シ日本銀

行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命

ズルコトヲ得

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ財産ヲ賣却スベキコトヲ命
ジタル場合ノ賣却價額ハ外國爲替管理委員會ニ諮問シ政府之ヲ定
ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國へノ送金若ハ外國ヨリノ
送金ノ受領其ノ他外國トノ債權債務ノ決濟又ハ外國ヨリ外國へノ
送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決濟ニ關シ其ノ方法、條件
其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ
依リ報告ヲ徵シ、帳簿ノ備付ヲ命ジ、帳簿ノ記載方ヲ指定シ又ハ
當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ
他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キ發シタル命
令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定メタル職務ヲ行フベキ

一 外國通貨又ハ外國爲替

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國へノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國へノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件

官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條ヲ第九條トシ第七條ヲ第十條トス

第六條 本法ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ニ住所ヲ有スル本邦人又ハ命令ノ定ムル本邦系外國法人ニ付テモ之ヲ適用スルコトヲ得

第七條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ従事スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ト看做ス

第八條中「本法ノ施行ニ關スル重要事項」ノ上ニ「第三條ノ賣却價額其ノ他」ヲ加ヘ同條ヲ第十二條トス

第九條 検査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ本法ヲ施行ニ關スル事務一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行為ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役

第八條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止若ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ日的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シタル者亦前項ニ同ジ

第三條又ハ第四條ノ規定ニ基キ發スル命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第三條ニ基キテ發スル命令ニ依リ財産ノ取得又ハ處分ヲ命ジタル場合當該財産ノ價額ノ二倍ガ五千圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ二倍以下トス
本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル行政處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿ノ備付ヲ爲サズ、帳簿ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第一項中第一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一條 當該官吏、委員若ハ第七條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法、罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人、代表者、代理人、使用人其ノ他、從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他、從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員 幹事若ハ

第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク
外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國爲替管理法改正法律案理由書

最近ノ國際情勢ニ鑑ミ外國爲替管理法ヲ改正スル必要アリ之レ本案
ヲ提出スル所以ナリ

參第貳章

資本移動 附資金調整

●外國爲替管理法

昭和八年三月二十九日
法律第二十八號

改定 昭和十一年八月十號 第八七號、一附則修正

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國爲替管理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、大藏、商工、
拓務大臣副署)

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、
金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料
トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造若ハ
毀傷
方法ニ依ラザルモノ
ヲ爲ス支拂

五 外國爲替相場ノ又處

六 外國通貨ヲ以テ表示スル證券、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

七 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

八 信用狀ノ發行又ハ取得

九 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十 證券ノ輸出又ハ輸入

第十二條 附則 第九章 資本移動

十一 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入

十二 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第六號又ハ第七號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ禁止若ハ制限又ハ第四條ノ處分命令ニ關シ必要ナル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ帳簿其ノ他ノ検査ヲ行フコトヲ得

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ヲ有スル者ニ對シ之ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ賣却シ其ノ他之ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ外貨評價委員會ノ定ムル所ニ依ル

外貨評價委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第一條又ハ第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

一七五五

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ又ハ輸出セントシタル者亦前項ニ同シ

前條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依ルハ通貨其ノ他ヲ處分シ又ハ賣却スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿其ノ他ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隠蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同シ

第六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ罰金刑ヲ科ス

第七條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同シ

第八條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲管理委員會ヲ置ク

外國爲管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和八年勅令第六十五號ヲ以テ昭和八年五月一日ヨリ施行)

資本逃避防止法ハ之ヲ廢止ス
本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍舊法ニ依ル

昭和八年四月二十六日
勅令第六十六號

附則
外國爲管理委員會ノ組織及權限ニ關シテハ
布セシム(總理、拓務)
外國爲管理委員會ノ組織及權限ニ關シテハ
本令ハ昭和八年五月一日ヨリ施行ス

日本標準規格B4判(十一行全)(山田納)

参照

關稅法

總理大臣
大臣副署

明治三十三年三月
法律第六十一號

第七章 犯則事件ノ調査及處分

第八十四條 税關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫
其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條 税關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏
匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ
身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 税關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ
犯則者證人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其
ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帯スヘシ

第八十八條 税關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察
官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條 税關官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索ノヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所
ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地
ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ
役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條 税關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證
明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目錄ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得



差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ税關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代
金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條 臨檢搜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得
ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規
定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得

第九十二條 税關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得
スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ副書ヲ作り
立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ
其ノ旨ヲ附記スヘシ

外國爲替管理法改正法律案

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄潰若ハ毀傷

三 外國ヘノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ

四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者(法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ)ノ爲ニスル本邦内ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

五 外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦内ニ於ケル委託

六 本邦居住者(法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム)ノ爲ニスル外國ニ於テ爲

ス支拂又ハ其ノ受領

七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人(外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ

含ム)又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス財產(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル

出資ヲ含ム以下同ジ)ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收

十 前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行

爲

十一 外國爲替相場ノ取極

十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券(財產權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同ジ)、債權又

ハ債務ノ取得又ハ處分

十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分

十四 信用狀ノ發行又ハ取得

十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲

十六 證券ノ輸出又ハ輸入

十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入

十八 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處

分

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替

二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ヘノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類

其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ従事スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ト看做ス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取

引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サ

ズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隠蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、

使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國爲替管理法改正法律案理由書

最近ノ國際情勢ニ鑑ミ外國爲替管理法ヲ改正スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

四

大甲第一四七號

案起

昭和十六年五月一日

閣議決定

昭和十六年五月二日

施行

昭和十六年五月二日
指令

內閣總理大臣



內閣書記官長

內閣書記官



外務大臣

陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



內務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙內務大藏兩大臣請議

橫濱市財政援助ニ關スル件

右閣議ニ供ス

指令案

横濱市財政援助ニ關スル件請議ノ
通

秘 第九二

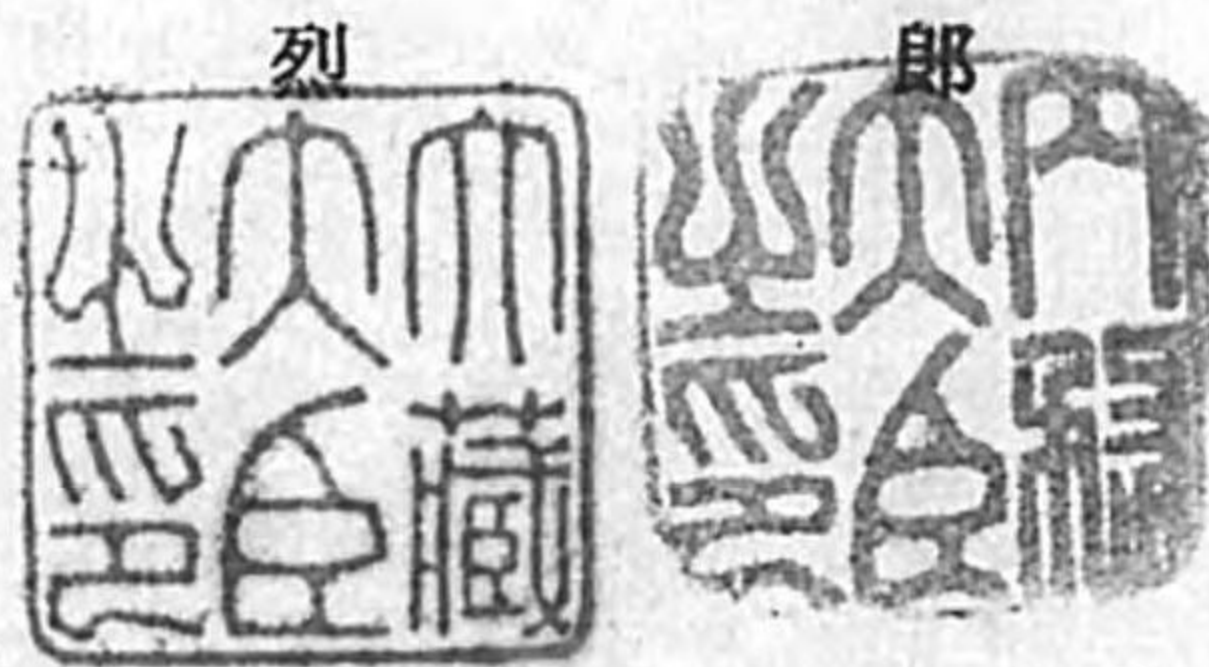
昭和十六年五月一日

内務大臣男爵 平 沼 騏一郎

大藏大臣 河 田 列

内閣總理大臣公爵 近 衛 文 麿 殿

横濱市長ヨリ別紙ノ通り同市財政援助方ニ付稟請アリタル處政府ト



大藏省

シテハ同稟請ノ如ク關東大震災復興ノ爲發行シタル同市六分利附
米貨公債ノ全額ニ付其ノ所要財源ヲ補給スヘキ限リニ非スト雖同
市財政窮乏ノ實情ハ之ヲ認メ得ルヲ以テ昭和四年以來ノ沿革ニ顧
ミ左記ノ方法ニ依リ同市財政ヲ援助スルノ方針ヲ決定シ以テ多年
ノ懸案ヲ解決セントス

右閣議ヲ請フ

方針

關東大震災復興ノ爲横濱市ニ於テ發行シタル同市六分利附米貨公債ノ内一般經濟及十全醫院經濟分ノ元利償還ニ關シ政府ハ横濱市ニ對シ昭和十六年度以降毎年度左記各號ノ合計額ニ相當スル金額ニ限り其ノ財源ヲ補給スルコト

1 毎年度支拂フヘキ同米貨公債ノ利子額（但シ平價換算額ニ依ルモノトス）

2 毎年度償還スヘキ同米貨公債ノ元金及利息ノ支拂ニ伴ヒ要スル爲替差損額

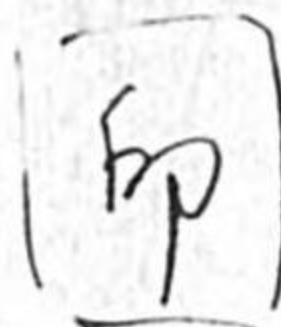
3 同米貨公債ノ償還財源ニ充當ノ爲發行シタル内國債ノ毎年度元利償還額

十六財公第七五二號

昭和十六年四月二十八日

横濱市長 半井

清



内務大臣男爵 平沼騏一郎 殿

大藏大臣 河田 烈 殿

横濱市財政援助ニ關スル件稟請

本市財政ハ關東大震災復興ノ爲巨額ノ市債ヲ負擔スルノ不止得仕儀ト相成就中大正十五年政府ノ慫慂ニヨリ借入レタル米貨公債ハ其ノ後爲替相場ノ底落ニヨリ爲替差損金ハ意外ノ増嵩ヲ來シ今日迄ニ相當額ノ元利償還ヲ繼續セルニモ拘ハラズ其ノ元本未償還ヲ現在爲替相場ニヨリ邦貨ニ換算スレバ借入當時ヨリモ寧口増嵩セル結果トナリ之ガ爲市一般財政ニ非常ナル重壓ヲ加ヘラルルコトト相成候

大日本帝國政府

而テ本市ハ之カ元利償還ノ爲ニ總テノ財力ヲ之ニ振向クルモ尙不足
 ヲ來タシ從テ累年巨額ノ赤字公債ヲ發行スルノ不止得狀態ニ陥リ市
 勢ノ發展ニ必要ナル諸施設ノ施行全ク不可能ノ現情ニ有之從テ之ヲ
 現狀ノママニ推移センカ市財政ハ破綻センモ計リ難ク憂慮ニ堪エサ
 ル所ニ有之候次第ニ付右事情御賢察ノ上米貨公債ノ償還ニ付左記金
 額國庫ニ於テ御負擔賜候様特別ノ御詮議相仰度此段及稟請候也

記

一、米貨公債未償還元金一三、二一三、二八〇弗

右ノ爲替相場二十三弗十六分ノ七替

邦貨換算額

五六、三七二、三九五圓

二、米貨公債支拂充當内債（昭和四年度ヨリ

三三、三三二、一五五圓

全十五年度迄ノ借入額）未償還元金

計

八九七〇四五五〇圓

秘

精濱市震災善後米貨公債關係負擔額調（一般及十全經濟）

年次	米		貨		債		米貨債元利償還		以上		備考
	元金爲替	利子額	同上爲替	同上爲替	元	元	元	元	元	元	
1111	1160	733	733	733	1307	733	1077	1809	4709		(註) 本調ハ備考記載ノ通り種々 假定ヲ加ヘタル一應ノ試算 ニ過キサルモノナルヲ以テ 確定金額ニ非ス
111	1094	731	731	731	1277	731	1047	1800	4753		
110	1031	876	876	876	1077	876	1002	1809	4809		
		876	876	876	1277	876	1047	1809	4863		
		876	876	876	1307	876	1077	1809	4819		

三三三	三三一	三一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二二
一	一	一	一五六	一七四四	一六四九	一五五二	一四六四	一三八一	一三〇三	一二二九
一	一	一	六一	一七四	二四二	三二四	四〇二	四七六	五四五	六一一
一	一	一	六九	一七四	二七二	三六六	四五三	五三六	六一五	六八八
一	一	一	一三一	三二八	五一四	六九〇	八五六	一〇一三	一六〇〇	一三〇〇
九六五	一〇一	一八九	一七五九	一八一七	一七三三	一六五三	一五七六	一五〇四	一四三九	一三六八
一四二	一八八	二四四	三二〇	三九八	四七五	五四七	六一五	六八〇	七三二	七七七
一〇八	一八九〇	一五三三	一〇八〇	二二一六	二二〇八	二二〇〇	二一九二	二一八四	二一七七	二一四六
一〇八	一八九〇	一五三三	一三六八	四二九〇	四三七〇	四四四四	四五一四	四五八〇	四六四二	四六七六

合	三	三	三	三	三
計	八	七	六	五	四
八三四六					
八六四六					
九七四二					
一八三八八					
二六二一六	二二一	三〇五	四九〇	六五二	七九八
一二二二一	八	二一	四二	六九	一〇二
三八二三八	二二〇	三二六	五三二	七二一	九〇〇
七四九七四	二二一	三二七	五三三	七三二	九〇一

備考

一、「米貨債」ニ付テハ昭和十四年度末未償還現在額ヲ基準トシ昭和

和十五年度以降額面償還トセル場合ノ假定年次表ニ依ル

二、爲替換算率ハ平價二圓〇〇六二（借入當時）、現在爲替相場

四圓二六六六トシ計算ス

三、「米貨債元利償還ノ爲ノ内國債」ニ付テハ昭和十四年度迄ハ實
蹟、昭和十五年度分ハ市條例ニ依ル

四、本表ハ各項毎ニ千圓以下切捨テタルヲ以テ内譯ト計トハ符合セ

ズ

閏甲二三

昭和六年七月十日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和六年七月十日

濟

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙内閣總理大臣請議關東州外國

為替管理令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

五

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令 案

呈案附箋ノ通

吉田事務官擔任

替管理令中改正ノ件

ニ件ヒ本令中改正ヲ爲スノ要アリ仍而別紙勅令案

ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十六年六月二日

内閣總理大臣公爵 近衛文



内閣總理大臣公爵 近衛文麿殿

陸甲二〇三

内

局

朕關東州外國爲替管理令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 七月十五日

內閣總理大臣

勅令第七百七十一號

關東州外國爲替管理令中左ノ通改正ス

第一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ同法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、外國トアルハ本
令施行地外、外國居住者トアルハ本令施行地外ニ居住スル者、本邦
内トアルハ本令施行地内、本邦居住者トアルハ本令施行地内ニ居住
スル者、
アルハ本令トシ同法第五條、
中勅令トアルハ關東局令トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州外國爲替管理令

昭和八年九月十六日
勅令第二百四十一號

(赤字ハ今回改正ヲ示ス)

第一條 關東州ニ於ケル外國爲替管理ニ關シテハ外國爲替管理法ニ依ル
但シ同法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、外國トアルハ本令
但シ同法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、外國トアルハ本令
施行地外、外國居住者トアルハ本令施行地外ニ居住スル者、本邦内ト
施行地、本邦内トアルハ本令施行内、外國居住者トアルハ本令施行地外
アルハ本令施行地内、本邦居住者トアルハ本令施行地内ニ居住スル者
ニ居住スル者、本法トアルハ本令トス

・本邦法人トアルハ本令施行地内ニ本店ヲ有スル法人、本法トアルハ

本令トシ同法第二項但書中勅令トアルハ關東局令トス

付五各ホ

第二條 本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル外國爲替管理法中外國通貨トハ

本邦貨幣、日本銀行兌換券、朝鮮銀行券及臺灣銀行券以外ノ通貨ヲ謂

フ

第三條 大使ハ本令ニ定ムルモノノ外外國爲替管理ニ關シ必要ナル事項

ヲ定ムルコトヲ得

第四條 大使ハ本令ニ依ル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ關東州廳長官ニ

委任スルコトヲ得

外國爲替管理法改正法律案

外國爲替管理法

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分

二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造若ハ毀傷

三 外國ヘノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラサルモノ

四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者（法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ）ノ爲ニスル本邦内ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

五 外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦内ニケル委託

六 本邦居住者（法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）ノ爲ニスル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領

七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受

- 九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人（外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム以下同シ）ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收
- 十 前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行爲
- 十一 外國爲替相場ノ取極
- 十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券（財産權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同シ）ノ債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
- 十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
- 十四 信用狀ノ發行又ハ取得
- 十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲
- 十六 證券ノ輸出又ハ輸入
- 十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又

ハ輸入

十八 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得

第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

一 外國通貨又ハ外國爲替

二、外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ

前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ニ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國へノ送金、外國ヨリノ送金

ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國
ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條
件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳
簿書類ノ備付ヲ命シ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシ
テ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査
セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令
ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令
ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部
ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合
ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行其ノ他政府ノ指定

スル者ノ職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ従事スル職員ト看做ス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ三倍カ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ收得シ若ハ輸出ヤントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スヘキ旨ノ政府ノ命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項記載セズ、之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ、本ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル主務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於

テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク
外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

●關東州外國爲替管理令

昭和八年九月十六日
勅令第二百四十一號

朕關東州及南滿洲鐵道附屬地外國爲替管理令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、拓務
大臣副署)

關東州外國爲替管理令

- 第一條 關東州ニ於ケル外國爲替管理ニ關シテハ外國爲替管理法ニ依ル但シ同法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、外國トアルハ本令施行地外、本邦内トアルハ本令施行地内、外國居住者トアルハ本令施行地外ニ居住スル者、本法トアルハ本令トス
- 第二條 本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル外國爲替管理法中外國通貨トハ本邦貨幣、日本銀行兌換券、朝鮮銀行券及臺灣銀行券以外ノ通貨ヲ謂フ
- 第三條 大使ハ本令ニ定ムルモノノ外外國爲替管理ニ關シ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 大使ハ本令ニ依ル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ關東州廳長官ニ委任スルコトヲ得

附則

本令施行ノ期日ハ關東長官之ヲ定ム

(昭和八年關東廳令第四十七號ヲ以テ昭和八年十月五日ヨリ施行)

昭和十六年五月二十二日

第...号

922 859 TMT

829 TMT

贊ヲ經タル外國

法律ヲ裁可シ茲

壘

十一月一日

公爵 近衛 文麿

秋田 清

河田 烈

豊田貞次郎

ノ定ムル所ニ依リ左ニ
為テ禁止又ハ制限スル

外國爲替ノ取得又ハ處

- 二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造若ハ毀傷
- 三 外國ヘノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ
- 四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者(法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ)ノ爲ニスル本邦内ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領
- 五 外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦内ニ於ケル委託
- 六 本邦居住者(法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム)ノ爲ニスル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領
- 七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受
- 八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受
- 九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人(外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム)又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス財産(事

- 業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ)ノ取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收
- 十 前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行爲
- 十一 外國爲替相場ノ取極
- 十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券財産權ヲ證スル證書及帳簿ヲ含ム以下同ジ)、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
- 十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
- 十四 信用狀ノ發行又ハ取得
- 十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲
- 十六 證券ノ輸出又ハ輸入
- 十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入
- 十八 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分

- 第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得
- 第三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
 - 一 外國通貨又ハ外國爲替
 - 二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權
 - 三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノ
- 前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム
- 第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ヘノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
- 第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

勅令

朕商工部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年四月十一日

内閣總理大臣 公府 近衛 文麿

商工大臣 豊田貞次郎

勅令第四百十六號

商工部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第二條ノ二 生産擴充上重要ナル工場ニ於

ケル生産其ノ他經營ニ關スル斡旋、指導

及監督ニ關スル事務ニ從事セシムル爲商

工省ニ左ノ職員ヲ置ク

工務官 專任十七人 奏任 内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

工務官補 專任十五人 判任

前項ノ職員ノ外生産擴充上重要ナル工場

ニ於ケル生産其ノ他經營ニ關スル斡旋、

指導及監督ニ關スル事務ニ從事セシムル

爲商工大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官

ノ中ヨリ内閣ニ於テ工務官ヲ命ズルコトヲ得

分

一 外國通貨
二 銀行
三 外幣
四 外幣兌換
五 外幣兌換
六 外幣兌換
七 外幣兌換
八 外幣兌換
九 外幣兌換
十 外幣兌換
十一 外幣兌換
十二 外幣兌換
十三 外幣兌換
十四 外幣兌換
十五 外幣兌換
十六 外幣兌換
十七 外幣兌換
十八 外幣兌換
十九 外幣兌換
二十 外幣兌換

第一條 本法ニ依リ外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虚偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ檢査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同シ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同シ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク

外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

御名 御璽

昭和十六年四月十一日

内閣總理大臣 公府 近衛 文麿

商工大臣 豊田貞次郎

法律

爲替管理法改正
帝國議會
公布

昭和十六年四月十一日

267 859 TMT

大甲第二一八號

案起 昭和十六年七月三日

閣議決定 昭和十六年七月五日 施行
裁可昭和 年 月 日

昭和十六年七月五日 指令

內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣



海軍大臣



商工大臣



厚生大臣



內務大臣



司法大臣



遞信大臣



逕國務大臣



大藏大臣



文部大臣



鐵道大臣



柳川國務大臣



陸軍大臣



農林大臣



拓務大臣



榮國務大臣



別紙大藏大臣請議

對米報復措置ニ關スル件

右閣

議

二

供

又

置

二

關

ス

ル

指令案

對米報復措置

二

關

ス

ル

件

請

議

通

第一三三號

昭和十六年七月二十四日

大藏大臣 小倉正



内閣總理大臣公爵 近衛文麿殿

對米報復措置ニ關スル件

右別紙ノ通閣議ヲ請フ

大藏省



對米報復措置ニ關スル件

米國ガ本邦ニ對シテ資金凍結令ヲ發動シタル場合ハ本邦ニ於テモ之ニ對シ外國爲替管理法ニ基キ報復的ナル措置ヲ講ジ米國人關係ノ諸取引ニ制限ヲ加フルモノトス但シ之ガ運用ニ當リテハ米國ニ於ケル資金凍結令ノ本邦ニ對スル運用振ニ應シ緩嚴其ノ宜シキヲ得ル様慎重ニ對處スルモノトス

尙滿支ニ於テモ本邦ニ於ケルト同様ノ步調ヲ執ラシムルモノトス

大藏省

七

大藏大臣
陸軍大臣
農林大臣
拓務大臣
大藏大臣
陸軍大臣
農林大臣
拓務大臣
大藏大臣
陸軍大臣
農林大臣
拓務大臣

大甲第二三二號

案起
昭和十六年七月二十六日

閣議
決定
昭和十六年七月二十七日
施行

昭和十六年七月二十七日
勅令

內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣 濟

海軍大臣 濟

商工大臣 濟

厚生大臣 濟

內務大臣 濟

司法大臣 濟

遞信大臣 濟

平沼國務大臣

大藏大臣

文部大臣 濟

鐵道大臣 濟

柳川國務大臣

濟

陸軍大臣 濟

農林大臣 濟

拓務大臣 濟

榮木國務大臣

濟

別紙大藏大臣請議

對英報復措置ニ関スル件

右閣議：烘又

指令案

對英報復措置：閱スル件請議

通

甲第一五二

一、對英報復措置ニ關スル件

右閣議ヲ請フ

昭和十六年七月二十六日

大藏大臣 小倉 正



内閣總理大臣公爵 近衛文麿 殿

大藏省

對英報復措置ニ關スル件

英國ガ本邦ニ對シテ資金凍結令ヲ發動シタル場合ニ於テモ本年七月二十五日閣議決定「對米報復措置ニ關スル件」ニ準ジ措置スルモノトス

對米報復措置ニ關スル件

昭和十六年七月二十五日
閣議決定

米國ガ本邦ニ對シテ資金凍結令ヲ發動シタル場合ハ本邦ニ於テモ之ニ對シ外國爲替管理法ニ基キ報復的ナル措置ヲ講ジ米國人關係ノ諸取引ニ制限ヲ加フルモノトス但シ之ガ運用ニ當リテハ米國ニ於ケル資金凍結令ノ本邦ニ對スル運用振ニ應シ緩嚴其ノ宜シキヲ得ル様慎重ニ對處スルモノトス

尙滿支ニ於テモ本邦ニ於ケルト同様ノ步調ヲ執ラシムルモノトス

内閣

八

大甲第二三五號

案起

昭和十六年七月十九日

閣議決定

昭和十六年七月十九日

施行

昭和十六年七月十九日
指令

內閣總理大臣



內閣書記官長



內閣書記官



外務大臣



海軍大臣



商工大臣



厚生大臣



內務大臣



司法大臣



遞信大臣



鐵道大臣



大藏大臣



文部大臣



鐵道大臣



柳國務大臣



陸軍大臣



農林大臣



拓務大臣



榮國務大臣



別紙大藏大臣請議

對蘭印報復措置ニ關スル件

右閣議 = 供又
指令案
對蘭印報復措置 = 關又
件
請議、通

官秘 第三四號

一、對蘭印報復措置ニ關スル件

右別紙ノ通閣議ヲ請フ

昭和十六年七月二十八日

大藏大臣 小倉 正

内閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿 殿



大藏省

對蘭印報復措置ニ關スル件

蘭印ガ本邦ニ對シテ資金凍結令ヲ發動シタル場合ニ於テモ本年七月二十五日閣議決定「對米報復措置ニ關スル件」ニ準ジ措置スルモノトス

尙今後他ノ外國ニ對シ全様ノ措置ヲ採ル場合ニハ大藏大臣限り之ヲ行フモノトス

大藏省

秘

對米報復措置ニ關スル件

昭和十六年七月二十五日
閣議決定

米國ガ本邦ニ對シテ資金凍結令ヲ發動シタル場合ハ本邦ニ於テモ之ニ對シ外國爲替管理法ニ基キ報復的ナル措置ヲ講ジ米國人關係ノ諸取引ニ制限ヲ加フルモノトス但シ之ガ運用ニ當リテハ米國ニ於ケル資金凍結令ノ本邦ニ對スル運用振ニ應シ緩嚴其ノ宜シキヲ得ル様慎重ニ對處スルモノトス

尙滿支ニ於テモ本邦ニ於ケルト同様ノ步調ヲ執ラシムルモノトス

内閣

九

大甲第四三七號

案起

昭和十六年十二月十六日

閣議 昭和十六年十二月十七日 施行

昭十六年十二月十七日 公布

內閣總理大臣



內閣書記官長

正

內閣書記官

外務大臣

長

海軍大臣

正

商工大臣

正

厚生大臣

長

內務大臣



司法大臣

正

遞信大臣

正

鈴木國務大臣



大藏大臣

興

文部大臣

正

鐵道大臣

正

陸軍大臣



農林大臣

正

拓務大臣

正

別紙兩院ノ議決ヲ經タル

敵

産

管

官

理法

案ヲ審査スルニ右ハ衆議院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル

敵産

停理法

ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十六年十二月二十二日

(上奏ノ旨)

内閣總理大臣

武井 謙吉

大藏大臣

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル
敵産管理法案ノ裁可ヲ
奉請ス

昭和十六年十二月十六日

衆議院議長小山松壽

衆議院書記官長大木操

IMT 658

286

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産

(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

- 一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産
- 二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資
- 三 本邦證券
- 四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對

シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク

敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ遡リテ之ヲ無効トス

別紙奏上有之度候也

昭和十六年十二月十六日

衆議院議長小山松壽



内閣總理大臣東條英機殿

衆議院書記官長大木操



曩ニ帝國議會ニ提出ノ儀上裁ヲ
仰ギタル敵産管理法案中左ノ通
訂正致度

記

附則第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

昭和十六年十二月八日以後本法施
行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以
テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲シタル行
爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得

又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行為ノ
時ニ遡リテ之ヲ無效トス

明治十六年十一月八日及茲本表
附則第二條ノ旨ニ依リテ

言

信五妖變

明治十六年十一月八日及茲本表
附則第二條ノ旨ニ依リテ